

保護者・地域・友だちとつながる！
スポーツを通じた学習・交流
「町ぐるみでオリパラ運動教室」

学校名 下関市立粟野小学校（山口県）2～6年

全校児童数 8名（男子3名 女子5名）

（本実践に係る問合せ先）

電話番号 083（785）0038

学校メールアドレス

awano-shou@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp

1 実践（研究）のねらい

- （1）オリンピックによる運動教室を通して、児童の実技の向上を図る。
- （2）オリンピックによる講演や試技を見ることを通して、運動に対する意欲の向上を図る。
- （3）運動教室に近隣の小中学生・保護者・地域の方を招くことを通して、子どもから高齢者まで幅広い世代の人がスポーツや運動に親しむとともに、運動を通して交流を深めることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 保護者・地域、近隣の小中学校と合同の運動教室の実施

講師を招聘する日を午前の部・午後の部に分け、以下の二つの運動教室を実施した。

（1）午前の部：保護者・地域の方との合同運動教室

①オリンピックによる講演

講師自身の経験を踏まえながら、運動だけに限らず、子どもたちが自身の夢を叶えるための四つのポイントを伝えられた。「好奇心をもち、勇気を出して挑戦し、その取り組みを継続させることで自信となる。」というお話から、目標に向かってチャレンジをしてほしいという思いを子どもたちに伝えていただいた。

②跳び箱の運動教室

本校児童を対象に、跳び箱の運動教室を行った。跳び箱に対して「痛い、怖い」と苦手意識をもっていた子どもたちであったが、講師の試技を見たり、スモールステップで課題を解決していったりすることで、その苦手意識を克服していった。保護者や地域の方の参観もあり、応援の声や褒める声をかけられたことで、子どもたちは意欲的に取り組むことができた。

③保護者・地域の方を巻き込んだ体ほぐしの運動教室

児童・保護者・地域の方を対象に、自宅でもできる体ほぐしの運動を行った。効果の高いストレッチのしかたや家族と一緒にできるストレッチのしかたについて、教えていただいた。

（2）午後の部：町内五校と合同の運動教室

①オリンピックによる講演

町内の小中学校が集まり、講演を聞いた。5・6年生と中学生が主体の話のため、午前の部の話を踏まえつつ、金銭面や引退後の進路など、キャリア教育に関わる内容の話も加えてお話しいただいた。

②小学生対象のマット運動教室

町内の四校の5・6年生を対象に、合同でマット運動教室を行った。講師の模範演技を見て興味・関心を高めたり、友だちの実技の様子を見たりしながら、前転・後転・側転の練習を行った。

2 運動教室の効果を高める事後の学習

講師として招いた水島宏一氏が制作に携わった「器械運動アプリ」やNHKの「はりきり体育ノ介」などを授業の中で視聴し、活用した。運動教室の中での指導を振り返りつつ、動画の中の「できるポイント」に注目して、練習を継続している。

○成果の意義

- 1 オリンピアンによる指導により、「水島先生のようにになりたい」「とび箱がこわくなくなった」など、器械運動への見方等が変わり、意欲が高まったといえる。また、「教えてもらったことを意識したい」「連続技にちょうせんしてみたい」など、これからの運動にも目的意識をもてるようになってきている。
- 2 講演を通して、「四つのポイントに気を付けたい」「自信がもてるようにがんばりたい」という意見が多かった。「今のうちに色々なことをして、しょう来の役に立てたい」という意見もあり、運動だけでなく、自身の将来について前向きに考えることができるようになったと考える。
- 3 地域の方から応援してもらったり、他校の児童の運動の様子を見合ったりすることで、児童の活動意欲につながった。「ほめられたり、がんばってと言われたりしてうれしかった。」「友だちの動きを見て学びになった」とあるように集団の中で活動するよさ・楽しさを味わうことができた。

○今後の課題

- 1 児童の体力の向上につながる取組の継続的な実施
- 2 教材「mPOSSIBLE」の活用など、パラリンピック種目に関する学習・体験活動の充実

○ 研究内容

講演（好奇心・勇気・自信・継続）

子どもが夢を実現するために取り組むことについて、講師の体験に基づいて話された。



講師による試技の鑑賞

ポイントをおさえた指導と実技により、イメージをつかんだ。



児童と保護者・地域の方との合同運動教室

児童の様子の参観と、体ほぐしの運動を行った。



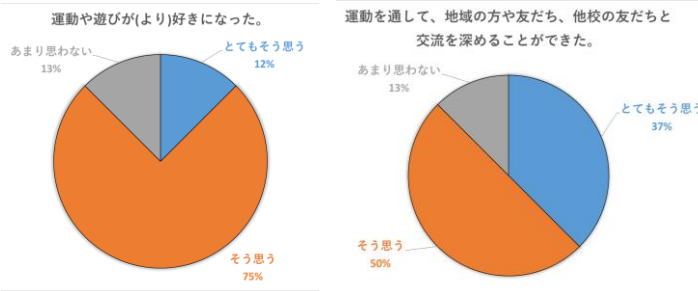
近隣の小中学校との合同運動教室

他校の友だちの様子を見合い、学ぶことができた。



運動教室後の児童の意見・感想(アンケートより)

全校児童に記述式、5・6年生には別途数値式のアンケートを行った。



【児童の意見・感想(抜粋)】

「好奇心、勇気、自信、継続、この四つを頑張りたいです。」

「先生に教えてもらったことを意識していきたいです。」

「子どもの時にいろんなことをやっていたら、しょう来の役に立つと思った。」

今後の取組について

～本実践終了後の学校の取組として～

- オリンピアン経験からくる講話や、生の試技を見たことは、児童の「やってみたい」「できるようになりたい」という感情を大いに動かすものであった。これを一つのきっかけとして、児童たちが普段の体育や、それ以外の活動においても、意欲的に挑戦していくことを支援していきたい。その結果として、成功により自信を深めたり、失敗から試行錯誤して改善を試みたりすることを通し、自己の夢や志の実現を達成してほしいと考える。
- 小中学生や保護者・地域の方との交流の中で、お互いに技能を競い合える友達の存在や、自分たちの努力や挑戦を支えてくれる人々の存在をより身近に感じることができたと言える。そういった人々とのコミュニケーションツールの一つとして、遊びや運動に親しみ、競い合ったりともに楽しんだりすることができる環境を目指したい。
- 本事業に参加した児童生徒や教職員が学びを生かし、それぞれの場所から広げ、繋げていくことで、技能の向上・できる喜び・遊びや運動を楽しむ心を感じられる児童生徒がさらに増えていくように努めていきたい。